技術の窓　№1655　　H 21.12.10

炭疽病及び輪斑病に強い暖地向きの

緑茶用極早生新品種「しゅんたろう」

鹿児島県南部地方などの暖地では、その気候を活かして「くりたわせ」などの極早生品種の栽培が盛んです。しかし、収量が少ないことや初期生育が劣ること、改植後に欠株が生じやすい等の問題があり、「くりたわせ」に代わる多収で栽培しやすい極早生品種の育成が望まれていました。(独)農研機構野菜茶業研究所では、炭疽病、輪斑病への抵抗性を有し、「くりたわせ」よりも収量が多く、約２日早く摘採できる緑茶用極早生品種を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

１．「しゅんたろう」(旧系統名　枕系 47-18）は、製茶品質に優れる「埼玉９号」を種子親、耐病性に優れる「枕$Ｆ_1$33422」を花粉親として、1990 年に交配された$Ｆ_1$実生群の中から選抜された品種です。

２．「しゅんたろう」は、一番茶の萌芽期と摘採期が「くりたわせ」より２日程度早い極早生品種です。一番茶の生葉収量は「くりたわせ」より優れ、「やぶきた」と同等、二番茶収量は「くりたわせ、やぶきた」より優れ、「ゆたかみどり」と同等です。また、製茶品質も「やぶきた」と同等で「くりたわせ」より優れています。耐病性が強く、炭疽病の自然発生程度や輪斑病の接種検定の結果から、両病に対する抵抗性は強と判定されます。

図１　「しゅんたろう」一番茶新芽

３．挿し木活着率は「くりたわせ」より優れ、「やぶきた」と同等です。

表１「しゅんたろう」の栽培加工特性(枕崎)

品種名	早晩性	樹 姿	萌芽期（月日）	摘採期（月日）	生葉収量(kg/10a)		製茶品質		挿し木活着率(%)	炭疽病抵抗性	輪斑病抵抗性
					一番茶	二番茶	一番茶	二番茶			
しゅんたろう	極早生	やや開張	3/12	4/9	106	145	23.0	22.5	93.9	やや強	強
くりたわせ	極早生	やや直立	3/13	4/11	59	82	22.0	19.5	71.7	中	強
ゆたかみどり	早生	開張	3/18	4/15	148	128	23.5	20.0	―	強	やや強
やぶきた	中生	やや直立	3/28	4/24	118	94	23.5	22.5	94.8	弱	弱

☆ 活用面での留意点

１．本品種は極早生であるため耐寒性が弱く、極早生品種である「くりたわせ」が植栽可能な温暖な地域での栽培に適しています。

２．樹姿はやや開張型で新芽の特性は芽数型ですので、栽培管理の時に芽重型になるよう留意します。また、炭疽病･輪斑病防除は基本的に不要ですが、虫害防除は必須です。

３．詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所枕崎茶業研究拠点(電話 0993-76-2126)にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫　農林水産事業本部　テクニカルアドバイザー　袴田　勝弘）